

平成30年度 佐世保市の環境問題に関する アンケート集計結果（概要版）

平成31年4月 佐世保市環境政策課

1 アンケート調査の目的

環境行政を効果的に推進するにあたり、市民や事業者の問題意識や取組状況、環境行政へのニーズを把握し、今後の環境行政の展開に活用する。

また、行政評価や佐世保市環境基本計画の成果指標となっている項目の達成度を当該アンケートにより把握するもの。

2 アンケート調査の対象

① 市民

佐世保市内に居住する20歳以上の男女（平成30年1月1日現在）のうち、支所及び行政センター管轄別の人口割合に応じて無作為に抽出した3,000名（男性1,500名、女性1,500名）

② 事業所

3 調査方法等

郵送による配布・回収（督促なし）

4 調査期間

平成31年2月8日（金）～3月8日（金）

5 回収結果

① 市民：1,110名（回収率：37%）

② 事業所：120事業所（回収率：48%）

6 調査結果

関心が高い環境問題について

《市民》

最も回答が多かった上位3項目は「地球温暖化」と「ごみのポイ捨てと不法投棄」, 「大気汚染（空気の汚れ）」。特に「ごみのポイ捨てと不法投棄」については、13.2ポイントの大幅な増加がみられた。最も減少したのは「外来種の繁殖による生態系などへの影響」で△6.8ポイントであった。

(関心が高い順)

項 目	回答数	割合	前年比	前年
地球温暖化	806	72.6%	△ 1.4%	74.0%
ごみのポイ捨てと不法投棄	650	58.6%	13.2%	45.4%
大気汚染（空気の汚れ）	649	58.5%	1.7%	56.8%
食品ロス	630	56.8%	※新規項目	-
ごみの減量、リサイクル	628	56.6%	6.2%	50.4%
排水による、川や海の水の汚れ	495	44.6%	△ 6.1%	50.7%
再生可能エネルギー	450	40.5%	△ 4.9%	45.4%
外来種の繁殖による生態系などへの影響	365	32.9%	△ 6.8%	39.7%
身近な自然の減少	339	30.5%	△ 2.1%	32.6%
騒音、振動	253	22.8%	1.1%	21.7%
野生生物や希少な動植物の減少	236	21.3%	△ 0.7%	22.0%
悪臭	223	20.1%	0.8%	19.3%
土壌汚染	196	17.7%	△ 2.7%	20.4%
その他	50	4.5%	△ 1.8%	6.3%
無回答	20	1.8%	0.0%	1.8%
合 計	5,990			

《事業所》

最も回答が多かったのは、「地球温暖化」であり、前年と比較すると7.1ポイントと大幅に増加している。

前年と比べ、「ごみの減量・リサイクル」「大気汚染（空気の汚れ）」「悪臭」で関心があると回答した事業所の割合が大きく減少している。

(関心が高い順)

項 目	回答数	割合	前年比	前年
地球温暖化	73	60.8%	7.1%	53.7%
ごみの減量・リサイクル	56	46.7%	△ 7.8%	54.5%
再生可能エネルギー	47	39.2%	0.4%	38.8%
排水による、川や海の水の汚れ	42	35.0%	0.3%	34.7%
大気汚染（空気の汚れ）	41	34.2%	△ 7.1%	41.3%
ごみのポイ捨てと不法投棄	34	28.3%	△ 2.3%	30.6%
食品ロス	31	25.8%	※新規項目	-
騒音、振動	24	20.0%	3.5%	16.5%
身近な自然の減少	19	15.8%	△ 0.7%	16.5%
土壌汚染	18	15.0%	1.0%	14.0%
外来種の繁殖による生態系などへの影響	14	11.7%	0.1%	11.6%
悪臭	12	10.0%	△ 4.9%	14.9%
野生生物や希少な動植物の減少	12	10.0%	1.7%	8.3%
その他	3	2.5%	0.0%	2.5%
無回答	3	2.5%	0.0%	2.5%
合 計	429			

住まいの周辺環境の満足度

《市民のみ》

「満足」「やや満足」の回答した人が多かったのは、「自然の景観の美しさ」「ごみが決められたルールどおりに出されるようにするための取り組み」であった。「環境に関する講座や観察会などのイベント」が最も低かった。

※今年度より、質問事項を変更しているため、前年度との比較を省略しています。

(「満足」「やや満足」と回答した人の割合が高い順)

質問事項 ()内の数値は「満足」「やや満足」と回答した人の割合の合計	満足	やや満足	どちらとも いえない	やや不満	不満	無回答	合計
自然の景観の美しさ (57.9%)	166 15.0%	476 42.9%	259 23.3%	133 12.0%	18 1.6%	58 5.2%	1,110 100%
ごみが決められたルールどおりに出されるように するための取り組み (55.3%)	145 13.1%	468 42.2%	251 22.6%	155 14.0%	41 3.7%	50 4.5%	1,110 100%
まちの静けさ(騒音や振動など) (48.7%)	162 14.6%	378 34.1%	299 26.9%	169 15.2%	50 4.5%	52 4.7%	1,110 100%
ごみを減らし、できるだけリサイクルする取り組み (45.3%)	86 7.7%	417 37.6%	395 35.6%	126 11.4%	31 2.8%	55 5.0%	1,110 100%
空気のきれいさ(車の排気ガス、空気のかすみなど) (39.5%)	112 10.1%	326 29.4%	354 31.9%	190 17.1%	69 6.2%	59 5.3%	1,110 100%
地産地消の推進 (38.8%)	77 6.9%	354 31.9%	454 40.9%	128 11.5%	17 1.5%	80 7.2%	1,110 100%
海、山、川、里山などの自然環境の保全 (37.5%)	58 5.2%	359 32.3%	385 34.7%	191 17.2%	52 4.7%	65 5.9%	1,110 100%
まちの清潔さ・きれいさ (ごみの散乱・ペットのふんなど) (35.3%)	57 5.1%	335 30.2%	273 24.6%	300 27.0%	91 8.2%	54 4.9%	1,110 100%
自然とふれあう機会 (水辺・農地や土・生きものなど) (34.3%)	63 5.7%	317 28.6%	451 40.6%	180 16.2%	34 3.1%	65 5.9%	1,110 100%
水のきれいさ(河川・水路・池沼・海など) (32.3%)	55 5.0%	303 27.3%	385 34.7%	258 23.2%	51 4.6%	58 5.2%	1,110 100%
環境に関する市からの情報提供(広報誌・テレビ・ ホームページなど) (28.3%)	56 5.0%	259 23.3%	576 51.9%	120 10.8%	36 3.2%	63 5.7%	1,110 100%
公共交通機関の便利さ (22.3%)	62 5.6%	185 16.7%	249 22.4%	336 30.3%	217 19.5%	61 5.5%	1,110 100%
省エネルギーの取組 (21.7%)	23 2.1%	218 19.6%	646 58.2%	117 10.5%	34 3.1%	72 6.5%	1,110 100%
再生可能エネルギーの推進(太陽光、風力、 水力発電などの、枯渇しないエネルギー) (18.1%)	28 2.5%	173 15.6%	621 55.9%	156 14.1%	62 5.6%	70 6.3%	1,110 100%
自治会やNPO団体などの環境保全活動 (15%)	24 2.2%	142 12.8%	756 68.1%	88 7.9%	35 3.2%	65 5.9%	1,110 100%
環境に関する講座や観察会などのイベント (10%)	15 1.4%	95 8.6%	809 72.9%	93 8.4%	31 2.8%	67 6.0%	1,110 100%

住まいの周辺環境の重要度

《市民のみ》

「重要」「やや重要」の回答した人が最も多かったのは、「まちの清潔さ・きれいさ（ごみの散乱・ペットのふんなど）」であった。各項目に対する満足度は20%～60%間で推移していたのに対し、重要度は70%～85%の間に13項目が集中する結果となった。

※今年度より、質問事項を変更しているため、前年度との比較を省略しています。

（「重要」「やや重要」と回答した人の割合が高い順）

質問事項 ()内の数値は「重要」「やや重要」と回答した人の割合の合計	重要	やや重要	どちらとも いえない	あまり重要 でない	重要でない	無回答	合計
まちの清潔さ・きれいさ (ごみの散乱・ペットのふんなど) (84.2%)	658	276	57	5	2	112	1,110
	59.3%	24.9%	5.1%	0.5%	0.2%	10.1%	100%
水のきれいさ（河川・水路・池沼・海など） (83.8%)	699	231	61	6	0	113	1,110
	63.0%	20.8%	5.5%	0.5%	0.0%	10.2%	100%
空気のきれいさ（車の排気ガス、空気のかすみなど） (83.3%)	716	209	69	4	2	110	1,110
	64.5%	18.8%	6.2%	0.4%	0.2%	9.9%	100%
海、山、川、里山などの自然環境の保全 (83.2%)	667	256	64	4	0	119	1,110
	60.1%	23.1%	5.8%	0.4%	0.0%	10.7%	100%
ごみを減らし、できるだけリサイクルする取り組み (82.1%)	626	285	81	5	2	111	1,110
	56.4%	25.7%	7.3%	0.5%	0.2%	10.0%	100%
自然の景観の美しさ (81.2%)	568	333	82	12	0	115	1,110
	51.2%	30.0%	7.4%	1.1%	0.0%	10.4%	100%
ごみが決められたルール通りに出されるように するための取り組み (80.8%)	628	269	92	10	2	109	1,110
	56.6%	24.2%	8.3%	0.9%	0.2%	9.8%	100%
公共交通機関の便利さ (77.5%)	538	322	108	15	6	121	1,110
	48.5%	29.0%	9.7%	1.4%	0.5%	10.9%	100%
まちの静けさ（騒音や振動など） (74.3%)	442	383	150	17	4	114	1,110
	39.8%	34.5%	13.5%	1.5%	0.4%	10.3%	100%
省エネルギーの取組 (73.4%)	537	278	167	7	1	120	1,110
	48.4%	25.0%	15.0%	0.6%	0.1%	10.8%	100%
自然とふれあう機会（水辺、農地や土、生きものなど） (72.4%)	432	372	170	11	0	125	1,110
	38.9%	33.5%	15.3%	1.0%	0.0%	11.3%	100%
再生可能エネルギーの推進（太陽光、風力、 水力発電などの、枯渇しないエネルギー） (70.6%)	536	248	189	9	5	123	1,110
	48.3%	22.3%	17.0%	0.8%	0.5%	11.1%	100%
地産地消の推進 (69.6%)	444	329	195	9	3	130	1,110
	40.0%	29.6%	17.6%	0.8%	0.3%	11.7%	100%
環境に関する市からの情報提供（広報紙・テレビ・ ホームページなど） (60.5%)	294	377	299	14	5	121	1,110
	26.5%	34.0%	26.9%	1.3%	0.5%	10.9%	100%
自治会やNPO団体などの環境保全活動 (48.2%)	210	325	429	16	9	121	1,110
	18.9%	29.3%	38.6%	1.4%	0.8%	10.9%	100%
環境に関する講座や観察会などのイベント (46.4%)	176	338	433	29	14	120	1,110
	15.9%	30.5%	39.0%	2.6%	1.3%	10.8%	100%

環境に関する経営方針や管理手法の導入

《事業所のみ》

前年と比べ、「すでに実施している」「今後実施したい」と回答した人の割合が最も大きく減少した項目は「環境担当部門や担当者の配置」であり、4.9ポイント減少した。

(「すでに」「今後」と回答した人の割合が高い順)

質問事項 ()内の数値は「大変そう思う」「ややそう思う」と回答した人の割合の合計 []は前年	すでに実施している	今後実施したい	現在検討中である	実施の予定はない	どのようなものか知らない	無回答	合計
自主的な環境管理計画(環境に配慮した原材料、物品サービスなどの購入ガイドライン)の策定 (10.9% [8.3%])	8	5	8	68	21	10	120
ISO14001の認証取得 (7.5% [8.2%])	6.7%	4.2%	6.7%	56.7%	17.5%	8.3%	100%
環境担当部門や担当者の配置 (7.5% [12.4%])	8	1	5	75	24	7	120
環境に関する内部監査の実施 (6.6% [10.0%])	6.7%	0.8%	4.2%	62.5%	20.0%	5.8%	100%
その他の環境マネジメントシステムの導入 (5.8% [5.8%])	8	1	7	80	16	8	120
環境報告書の作成 (5% [9.1%])	6.7%	0.8%	5.8%	66.7%	13.3%	6.7%	100%
エコアクション21の認証取得 (2.5% [2.5%])	7	1	7	83	15	7	120
その他 (0% [0.0%])	5.8%	0.8%	5.8%	69.2%	12.5%	5.8%	100%
	3	4	9	70	26	8	120
	2.5%	3.3%	7.5%	58.3%	21.7%	6.7%	100%
	5	1	8	83	15	8	120
	4.2%	0.8%	6.7%	69.2%	12.5%	6.7%	100%
	1	2	10	69	30	8	120
	0.8%	1.7%	8.3%	57.5%	25.0%	6.7%	100%
	0	0	2	0	0	118	120
	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	98.3%	100%

日頃行っている環境保全の取組

《市民》

「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合が最も高かったのは、前年と同様「ごみと資源物の分別をきちんと行いリサイクルに努めている」であった。「冷暖房を使う時の室温は、冷房28℃・暖房20℃を目安としている(△6.9ポイント)」「生ごみ袋の水分を絞ったり、乾燥させて軽量化させたり、生ごみの減量に取り組んでいる(△6.0ポイント)」「環境保全に関するイベントや講座などに参加している(△4.5ポイント)」「環境家計簿をつけ、環境にやさしい日常生活となっているかチェックしている(△3.4ポイント)」の3項目で、標本誤差(±2.9ポイント)以上の減少

(「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合が高い順)

質問事項 ()内の数値は「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合の合計、[]内は昨年の割合(※)	いつも行っている	時々行っている	行っていないが今後行いたい	今後も行わない、又は行っていない	該当しない	無回答	合計
ごみと資源物の分別をきちんと行いリサイクルに努めている (93.4% [92.9%])	891 80.3%	145 13.1%	25 2.3%	8 0.7%		41 3.7%	1,110 100%
油や食べ残しを排水口へ流さないようにしている (91.8% [90.8%])	802 72.3%	216 19.5%	43 3.9%	11 1.0%		38 3.4%	1,110 100%
車を使用するときは、不要なアイドリング、空ぶかしや急発進などをしないようにしてエコドライブを行っている (90.1% [88.4%])	663 59.7%	221 19.9%	29 2.6%	19 1.7%	129 11.6%	49 4.4%	1,110 100%
物は大切に、修理したりして長く使うようにしている (85.4% [85.0%])	512 46.1%	436 39.3%	106 9.5%	16 1.4%		40 3.6%	1,110 100%
歯を磨くときは水道を止めたり、風呂の残り水を洗濯物に使ったり、 日常生活で節水に努めている (84.4% [83.3%])	634 57.1%	303 27.3%	99 8.9%	33 3.0%		41 3.7%	1,110 100%
シャワーはこまめに止めて利用するよう心がけている (82.2% [81.8%])	467 42.1%	286 25.8%	82 7.4%	36 3.2%	194 17.5%	45 4.1%	1,110 100%
食材は無駄なく使い、鍋底から炎がはみ出さないようにするなど、 エコクッキングを行っている (82.1% [82.8%])	536 48.3%	375 33.8%	124 11.2%	30 2.7%		45 4.1%	1,110 100%
皿洗いや洗面などは、冷たくない程度の温水が、 水を使うようにしている (79.0% [79.4%])	510 45.9%	367 33.1%	119 10.7%	73 6.6%		41 3.7%	1,110 100%
テレビや照明をつけっぱなしにしないようにしたり、使っていない電化製品は コンセントからプラグを抜いたり、省エネに心がけている。(77.5% [76.5%])	397 35.8%	463 41.7%	134 12.1%	73 6.6%		43 3.9%	1,110 100%
食材は地元産の旬のものを購入するよう努めている (76.5% [75.1%])	361 32.5%	488 44.0%	167 15.0%	50 4.5%		44 4.0%	1,110 100%
詰め替え商品や再使用、再生利用しやすい商品やエコマークの 付いた商品を優先して購入している。(76.3% [75.2%])	437 39.4%	410 36.9%	162 14.6%	60 5.4%		41 3.7%	1,110 100%
買い物には、買い物かごや買い物袋を持っていき、 レジ袋はもらわないようにしている (73.9% [73.5%])	437 39.4%	383 34.5%	149 13.4%	104 9.4%		37 3.3%	1,110 100%
生ごみ袋の水分を絞ったり、乾燥させて軽量化させたり 生ごみの減量に取り組んでいる (69.9% [75.9%])	436 39.3%	340 30.6%	219 19.7%	76 6.8%		39 3.5%	1,110 100%
冷暖房を使う時の室温は、冷房28℃・暖房20℃を目安としている (66.1% [73.0%])	375 33.8%	358 32.3%	184 16.6%	136 12.3%		57 5.1%	1,110 100%
地域における環境保全活動に参加している(地域の清掃、資源集団 回収など) (53.5% [54.0%])	334 30.1%	260 23.4%	255 23.0%	215 19.4%		46 4.1%	1,110 100%
山や海などの自然にふれあう機会を持っている (52% [—])	187 16.8%	391 35.2%	346 31.2%	136 12.3%		50 4.5%	1,110 100%
なるべく公共交通機関や自転車などの利用や徒歩を心がけている (47.5% [46.6%])	231 20.8%	296 26.7%	269 24.2%	253 22.8%		61 5.5%	1,110 100%
環境家計簿をつけ、環境にやさしい日常生活となっているか チェックしている (24.4% [27.8%])	127 11.4%	144 13.0%	380 34.2%	379 34.1%		80 7.2%	1,110 100%
環境保全に関するイベントや講座などに参加している (7.6% [12.1%])	16 1.4%	69 6.2%	493 44.4%	479 43.2%		53 4.8%	1,110 100%

※「該当しない」を除いた割合で計算している。

《事業所》

「いつも行っている」「時々おこなっている」と回答した事業所の数が最も多かったのは、前年度に続き「紙、金属缶、ガラスびんなどについて、回収ボックス等を設置し、分別して適正に処理している」であった。

前年と比べ大幅に増加した項目は「省エネのため製造工程や製造ラインを改善している(14.4ポイント)」「不要なアイドルングをやめるよう徹底している(9.5ポイント)」「事業所周辺や、公園や道路の清掃など地域活動へ参加している(8.8ポイント)」「事業所内や周辺地域の緑化に努めている(6.1ポイント)」「エコカー(低公害車や低燃費車)を導入している(5.3ポイント)」であった。大幅に減少したのは「コピー用紙には再生紙を使用している(△6.9ポイント)」であった。

(「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合が高い順)

質問事項 ()内の数値は「いつも行っている」「時々行っている」と回答した人の割合の合計 []は前年(※)	いつも 行っ て い る	時々 行っ て い る	行っ て い な い が 今 後 行 い た い	今後 も 行 わ な い 、 又 は 行 っ て い な い	該 当 し な い	無 回 答	合 計
紙、金属缶、ガラスびんなどについて、回収ボックス等を設置し、分別して適正に処理している (88.7%[86.7%])	88	15	3	6	4	4	120
	73.3%	12.5%	2.5%	5.0%	3.3%	3.3%	100%
コピー用紙の使用量を減らしている(両面コピーや裏紙の利用等) (79.2%[81%])	59	36	14	5		6	120
	49.2%	30.0%	11.7%	4.2%		5.0%	100%
昼休み等、不要な時は電気を消灯している (74.2%[78.5%])	51	38	14	12		5	120
	42.5%	31.7%	11.7%	10.0%		4.2%	100%
冷暖房の時間短縮や設定温度(目安:冷房28℃、暖房20℃)を徹底している (70.9%[67.8%])	38	47	18	12		5	120
	31.7%	39.2%	15.0%	10.0%		4.2%	100%
コピー用紙には再生紙を使用している (70.8%[77.7%])	54	31	18	10		7	120
	45.0%	25.8%	15.0%	8.3%		5.8%	100%
古紙を使ったトイレトペーパーを使用している (66.7%[65.3%])	39	41	16	13		11	120
	32.5%	34.2%	13.3%	10.8%		9.2%	100%
不要なアイドルングをやめるよう徹底している (57.5%[48%])	33	36	30	15		6	120
	27.5%	30.0%	25.0%	12.5%		5.0%	100%
包装・梱包の削減、再利用を進めている (54.2%[51.2%])	21	44	21	25		9	120
	17.5%	36.7%	17.5%	20.8%		7.5%	100%
事業所周辺や、公園や道路の清掃など地域活動へ参加している (54.2%[45.4%])	35	30	24	27		4	120
	29.2%	25.0%	20.0%	22.5%		3.3%	100%
省エネのため製造工程や製造ラインを改善している (42.7%[28.3%])	11	15	15	10	59	10	120
	9.2%	12.5%	12.5%	8.3%	49.2%	8.3%	100%
エコカー(低公害車や低燃費車)を導入している (42.5%[37.2%])	41	10	43	14		12	120
	34.2%	8.3%	35.8%	11.7%		10.0%	100%
事業所内や周辺地域の緑化に努めている (41.7%[35.6%])	29	21	34	31		5	120
	24.2%	17.5%	28.3%	25.8%		4.2%	100%
グリーン購入を行っている (38.3%[33.9%])	15	31	42	23		9	120
	12.5%	25.8%	35.0%	19.2%		7.5%	100%
使用していない時は、パソコンやコピー機等のコンセントを抜いている (35.8%[32.2%])	13	30	35	36		6	120
	10.8%	25.0%	29.2%	30.0%		5.0%	100%
省エネのための効率的な輸配送システムがある (21.6%[19.1%])	9	5	27	14	55	10	120
	7.5%	4.2%	22.5%	11.7%	45.8%	8.3%	100%
雨水や一時使用した水を再利用している (17.5%[15.7%])	14	7	24	66		9	120
	11.7%	5.8%	20.0%	55.0%		7.5%	100%
環境保全に関する従業員研修を行っている (15.8%[11.6%])	4	15	43	49		9	120
	3.3%	12.5%	35.8%	40.8%		7.5%	100%
ノーマイカーデーを導入するなど、従業員のマイカー出勤を自粛させている (14.4%[14.8%])	3	10	9	63	30	5	120
	2.5%	8.3%	7.5%	52.5%	25.0%	4.2%	100%
自社製品、サービスにおける環境配慮内容を明示している。 (14.1%[11.8%])	4	13	27	64		12	120
	3.3%	10.8%	22.5%	53.3%		10.0%	100%

※「該当しない」を除いた割合で計算している。

日常の取組みで障害と感じていること

《市民》

前年度と同じく「環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い」と回答した人が最も多かった。「無回答」の割合が4.1ポイント減少し、他項目も概ね増加傾向となった。なかでも「何をどのように取り組めばいいかわからない」「取り組みを持続することが難しい」の2項目は、標本誤差（±2.9ポイント）を超える増加が見られた。

(障害と感じている割合が高い順)

項 目	回答数	割合	前年比	前年
環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い	374	33.7%	0.0%	33.7%
何をどのように取り組めばいいかわからない	284	25.6%	4.5%	21.1%
取り組みを持続することが難しい	266	24.0%	5.1%	18.9%
手間がかかる	266	24.0%	2.3%	21.7%
取り組んだ成果が実感できない	231	20.8%	2.3%	18.5%
特に障害を感じることはない	218	19.6%	△ 1.0%	20.6%
取り組みに対しての優遇措置（助成金等）が少ない	191	17.2%	2.2%	15.0%
取り組まない場合でも、負担・規制・罰則などがない	168	15.1%	1.4%	13.7%
行うきっかけがない	150	13.5%	2.5%	11.0%
無回答	117	10.5%	△ 4.1%	14.6%
今の生活が快適なので、変えたくない	91	8.2%	1.4%	6.8%
その他	34	3.1%	△ 0.4%	3.5%
合 計	2,390			

《事業所》

障害と感じている項目として最も回答割合が高かったのは、「何をどのように取り組めば良いかわからない」であった。

前年と比べ、「手間がかかる」と回答した事業所が増加したが、「負担・規制・罰則がない」「行うきっかけがない」「自社だけで取り組んでも仕方がない」「持続することが難しい」については、3ポイントを超える減少がみられた。

(障害と感じている割合が高い順)

項目	回答数	割合	前年比	前年
何をどのように取り組めば良いかわからない	40	33.3%	△ 0.6%	33.9%
環境にやさしい商品、製品の購入費用が高い	38	31.7%	△ 1.4%	33.1%
手間がかかる	33	27.5%	1.9%	25.6%
特に障害を感じることはない	30	25.0%	7.6%	17.4%
取り組みを持続することが難しい	26	21.7%	△ 3.1%	24.8%
行うきっかけがない	22	18.3%	△ 4.0%	22.3%
取り組みに対しての優遇措置（助成金等）が少ない	16	13.3%	△ 1.6%	14.9%
取り組んだ成果が実感できない	13	10.8%	△ 2.4%	13.2%
無回答	11	9.2%	2.6%	6.6%
取り組まない場合でも、負担・規制・罰則などがない	10	8.3%	△ 10.7%	19.0%
自社だけ取り組んでも仕方がない	10	8.3%	△ 3.3%	11.6%
その他	4	3.3%	△ 0.8%	4.1%
表彰・認証制度がない	2	1.7%	△ 0.8%	2.5%
合 計	255			

省エネルギー・再生可能エネルギー関連機器の設置・利用について

《市民》

質問事項 ()内の数値は、「現在利用している」「今後導入を 考えたい」「安くなれば導入したい」と回答した割合の合 計	現在利 用して いる	今後導 入を考 えたい	安くなれ ば導入 したい	導入す るつも り はない	わか ら ない	無回答	合計
電気自動車 (48.6%)	24 2.2%	77 6.9%	439 39.5%	248 22.3%	212 19.1%	110 9.9%	1,110 100%
家庭用蓄電池 (40.7%)	25 2.3%	70 6.3%	356 32.1%	240 21.6%	303 27.3%	116 10.5%	1,110 100%
太陽光発電 (40.4%)	108 9.7%	53 4.8%	288 25.9%	366 33.0%	186 16.8%	109 9.8%	1,110 100%
家庭用燃料電池(エネファーム) (31.9%)	19 1.7%	45 4.1%	290 26.1%	294 26.5%	342 30.8%	120 10.8%	1,110 100%
雨水貯留タンク (29.2%)	33 3.0%	68 6.1%	223 20.1%	343 30.9%	331 29.8%	112 10.1%	1,110 100%

《事業所》

質問事項 ()内の数値は、「現在利用している」「今後導入を考 えたい」「安くなれば導入したい」と回答した割合の合 計	現在利 用して いる	今後導 入を考 えたい	安くなれ ば導入 したい	導入す るつも り はない	わか ら ない	無回答	合計
太陽光発電設備 (44.2%)	9 7.5%	8 6.7%	36 30.0%	41 34.2%	21 17.5%	5 4.2%	120 100%
次世代自動車の導入 (68.3%)	18 15.0%	16 13.3%	48 40.0%	12 10.0%	20 16.7%	6 5.0%	120 100%
雨水貯留タンク (30%)	5 4.2%	4 3.3%	27 22.5%	41 34.2%	38 31.7%	5 4.2%	120 100%

「エコ資金」について

《事業者のみ》

項 目	回答数	割合	前年比	前年
名前も具体的な内容も知っている	3	2.5%	1.7%	0.8%
名前は知っているが、具体的な内容は知らない	32	26.7%	2.7%	24.0%
初めて聞く名前である	78	65.0%	△ 4.4%	69.4%
無回答	7	5.8%	0.0%	5.8%
合計	120			

「食品ロス」について

《市民のみ》

《食品ロスについて》 日本国内の年間の食品廃棄量は、食料消費全体の3割にあたる約2,800万トンで、このうち、本来食べられたはずの、いわゆる「食品ロス」は約646万トン(2015年度)とされています。日本人1人あたりに換算すると、「お茶碗約1杯分(約140g)の食べ物」が毎日捨てられている計算となります。日本の食料自給率は現在39%(2015年度)で、大半を輸入に頼っていますが、一方で食べられる食料を大量に捨てており、その半数は家庭から出されています。

■上記のような日本の「食品ロス」の状況について、知っていたか

項目	回答数	割合
知っていた	770	69.4%
知らなかった	236	21.3%
無回答	104	9.4%
合計	1,110	

■これまでに、食品を食べることができずに、捨てたことがあるか

項目	回答数	割合
捨てたことがある	849	76.5%
捨てたことはない	159	14.3%
無回答	102	9.2%
合計	1,110	

■「捨てたことがある」と答えた方において、捨てた理由 (該当するものすべてに○を記入)

項目	回答数	割合
食品の鮮度が落ちたり、腐ったり、カビが生えたから	678	79.9%
食品の消費期限・賞味期限を過ぎたから	522	61.5%
食品の色やにおいなどで不安を感じたから	430	50.6%
食品が中途半端に余ったから	160	18.8%
その他	30	3.5%
合計	1,820	

有効回答数(N)=858

■食品ロスをなくす取り組みをしているか

項目	回答数	割合
いつも行っている	343	30.9%
時々行っている	480	43.2%
行っていないが、今後取り組んでみたい	120	10.8%
行っていないし、今後もしないと思わない	10	0.9%
無回答	157	14.1%
合計	1,110	

「3010運動」について

《市民》

《3010(サンマルイチマル)運動について》

3010(サンマルイチマル)運動は、宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、「乾杯後30分前」は席を立たずに料理を楽しみましょう、「お開き10分前」になったら、自分の席に戻って、再度料理を楽しみましょう、と呼びかけて、宴会を楽しみながら、食品ロスを削減するものです。

■ 「3010運動」について、知っていたか

項 目	回答数	割合
知っていた	116	10.5%
知らなかった	952	85.8%
無回答	42	3.8%
合計	1,110	

■ 「3010運動」について、取り組んだことがあるか

項 目	回答数	割合
いつも取り組んでいる、または取り組んだことがある	102	9.2%
取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい	457	41.2%
取り組んだことはなく、今後も取り組んでみたいとは思わない	81	7.3%
宴会に参加する機会がない	396	35.7%
無回答	74	6.7%
合計	1,110	

《事業所》

■ 「3010運動」について、知っていたか

項 目	回答数	割合
知っていた	25	20.8%
知らなかった	90	75.0%
無回答	5	4.2%
合計	120	

■ 「3010運動」について、取り組んだことがあるか

項 目	回答数	割合
いつも取り組んでいる、または取り組んだことがある	16	13.3%
取り組んだことはないが、今後取り組んでみたい	47	39.2%
取り組んだことはなく、今後も取り組んでみたいとは思わない	11	9.2%
宴会を開く機会がない	34	28.3%
無回答	12	10.0%
合計	120	